鳥取市教育センターだより

第３号　平成３０年９月７日発行

〒680-0053
鳥取市寺町１５０番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

ポジティブな気持ちで「ぎりぎりセーフ！」

所長　　東田　重高

９月に入り、各校では子どもたちの笑顔と元気な姿があふれていることと思います。この夏は、連日の酷暑、台風等による豪雨や土砂災害など、「命の危険」を身近に痛感させられる夏でした。また、感動を与えてくれた夏の各種スポーツ大会では、緊迫した中でほっとひと安心の瞬間「ぎりぎりセーフ！」の場面が多くみられました。

さて、８月には中学生のシンガポール派遣事業（鳥取市グローバル人材育成事業）も無事終わり、学校では運動会・修学旅行等、みんなで創り上げる行事の時期となり、様々な場面で子どもたちが成長した姿を見せてくれます。そのような機会に、子どもたちに称賛や喜びの声をかけることで、自己肯定感を高め、次への意欲につなぐことができます。また、「特別支援教育の視点を基盤とした研修」の中で、

〇好意に満ちた語りかけ（子どもを信じる、言い分を聞く、責めない）で「あったか学級づくり」
〇指示してできたことをほめることで定着させる
〇すべての子どもを支えてこそ学校である
〇特別支援教育と「姿勢」の深いかかわり

など、たくさんのご示唆を講師よりいただきました。特に、これまでの実践を「できた」「できなかった」と何段階かで評価する場合に、否定的に「できなかった」（アウト）と決めつけるより、肯定的に少しでもできていることに注目し「ぎりぎりセーフ！」といえる評価段階を用意することの大切さの話が印象的でした。

「ぎりぎりセーフ」には、「土俵際で踏みとどまる、もちこたえるなど、まだ僅かな可能性が残っていること」、「滑り込みで、何とか間に合うなど、紙一重で容認されること」の意味も含まれています。子どもたちはいろいろな可能性を秘めています。子どもたちにはもちろん、先生方ご自身に対しても、「以前よりできているね」「大丈夫だよ」と、ポジティブな気持ちで「ぎりぎりセーフ！」と笑顔でほめることを心がけてみてはいかがでしょうか？

研修企画係

学んだことを活かす

研修前半が終了しました。鳥取市独自の研修の特徴でもある中堅教諭と教務主任、特別教育主任等とのコラボ研修はじめ、初任研、校長研、副校長・教頭研など、すべての研修に共通することがあります。それは、特別支援教育の視点を基盤とした研修体系になっていることです。さらに、研修後、各学校で、研修参加者が協働して研修内容を生かした実践をしていくことで、大きな教育効果につながるような仕組みになっています。

【参加者の振り返りから】

〇自分が学校全体へもっと目を向けていかなくてはならない立場になってきたのだと感じた。ミドルリーダーとして、学校全体のことを考えていきたい。

〇教師同士の学び合い支え合いを実践し、チームで取り組むよう教務主任としてリーダーシップを発揮したい。

〇共感し、感動した。自分の実践事例をもとにし講義が心にぐっときた。明日からの自校の実践に生かしたい。

〇紹介された事例を聞きながら、自校の子どもの姿と、ともに働く教職員の姿が自然と重なった。学級経営に奮闘している職員全員に学んだことをすべて伝えたい。

参加した先生に聞いてみよう！

【研修講座から抜粋】

特別ではない特別支援教育
～すべての先生がすべての子どもの特性を理解し、分かる授業づくり～

発達障害のある子どもとあったか学校づくり
～すべての子どもが自分のよさを発揮できる学校づくり～

学校不適応解消（未然防止）のための学校経営の在り方
～ピア・サポート、ピア・メディエーション～

連携のための子どもの見立て
～複数の視点で見る子どもの深い理解～

すべての子どもが幸せになるための学校経営
～一歩先の組織的なかかわり、スクールワイドＰＢＳ～

幸せづくりの処方箋
～子ども同士のかかわりを育む生徒指導～

よりよい人間関係を築く気づきとこつ
～アセスでよみとく子どもの適応感～
～基礎的・応用的社会的能力を育てるカリキュラム～

学校不適応解消（未然防止）に向けた児童生徒理解
～主体的に学び、ともに高め合う児童生徒の育成～

子どもの多様性に応じる教育的支援のあり方や学級集団づくり
～インクルーシブ教育システムの構築に向けて～

研修で得た具体的方策や気付きを戦略的に取り入れていくことは、各学校・中学校区の取組を磨き、ブラッシュアップすることにつながります。各研修の参加後、積極的に協働して実践に活かしましょう。

特別支援教育係

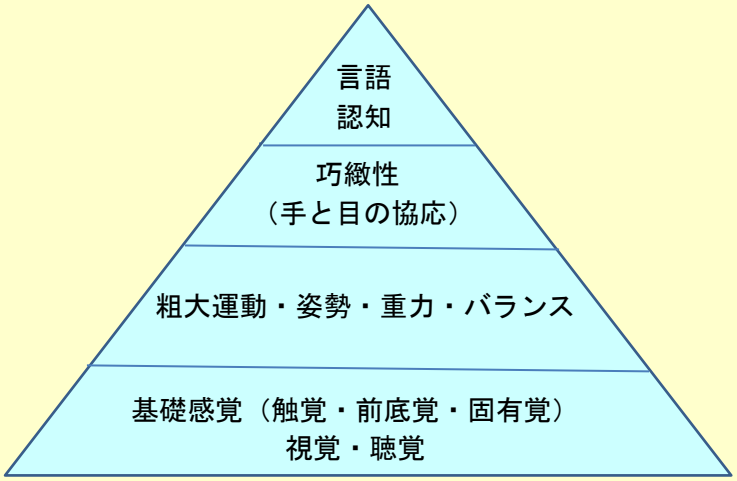
改めて、特別支援教育の視点を基盤にすることの意味を考えてみませんか！！
～すべての子どもが幸せになるために～

特別支援教育が学校教育法に位置づけられて１０年が経ちました。全ての学校において、特別支援教育を実施することとなり、各学校において校内委員会の設置、特別支援教育主任の指名、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等、校内支援体制が整備されてきました。

特別支援教育が定着すると、確かな学力の向上、豊かな心の育成、いじめや不登校などの二次的障がいの未然防止に寄与することが期待されており、鳥取市の教育課題である「学校不適応の解消（未然防止）」「学力向上」を解決するためには、特別支援教育は不可欠です。

鳥取市では特別支援教育の視点を基盤にした教職員研修を実施していますが、改めて特別支援教育の視点を学校全体に浸透させていくために「発達」に目を向けてみると、児童生徒の教育的ニーズを理解する視点の一つとなります。

感覚・運動発達には階層性があります。
言語や認知の発達を促すためには、
巧緻性、粗大運動、姿勢、基礎感覚が基盤となります。



「ＬＤ児の言語・コミュニケーション障害の理解と指導」第２版（日本文化科学社）

姿勢の保持やバランス感覚を養うためには、小さい頃からの体作りはとても重要となります。

学校でできる体作りの方法の一つとして、８月２０日（月）「中堅教諭等資質向上研修④」「特別支援教育ステップアップ研修③」　において、中尾繁樹先生の御講義で示していただきました。

① スローモーション起立
② つばめ
③ つま先かかとシーソー
④ バレリーナになろう

やり方や効果については、研修受講者と情報共有してみてください。

「あいサポートキッズ」を御存じですか？

平成２９年９月１日に「鳥取県民みんなで進める障がい者が暮らしやすい社会づくり条例（愛称：あいサポート条例）」が施行されて１年が経ちます。また、鳥取市でも平成３０年５月に「共生社会ホストタウン」登録となりました。

共生社会の形成のため、あいサポート運動の未来の担い手となるため、「あいサポートマインド」をもって行動できる子どもたちになってほしいと願っています。

学校の授業で「あいサポート運動」や「手話学習や体験学習などの障がい理解」の学習に取り組み、報告書を送付すると、学習に取り組んだ子どもたち全員に「あいサポートストラップ」が届き、「あいサポートキッズ」になることができます。

各学校で取り組んでおられる人権教育や福祉教育を通して、「あいサポートキッズ」を目指してみてはいかがでしょうか。

※問合せ先　鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課